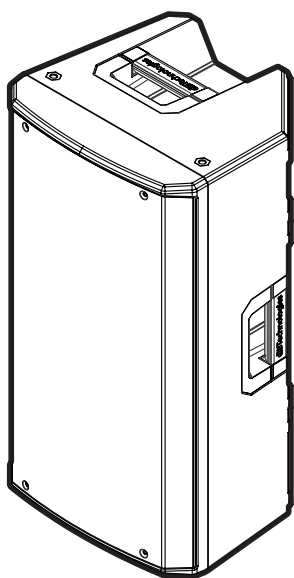


dBTechnologies

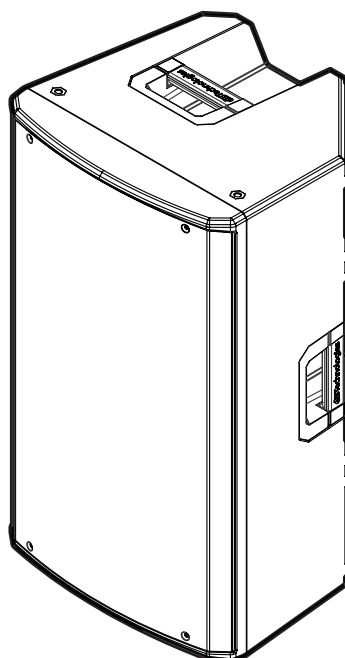
OPERA シリーズ

UNICA 12 / UNICA 15
2-Way アクティブスピーカー

取扱説明書









UNICA 12



UNICA 15









安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするとき 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的(年1回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20cm以上)離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災/感電の原因となります。</p> <p>適切な器具を用いることなくスピーカーを吊り下げない スピーカーのハンドル部を使って吊り下げない 落下や故障の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検/修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>指示</p>	<p>設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p>
	<p>注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>
 <p>指示</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>注意</p>	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) にご相談ください。 内部にほこりがたまのまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
商標および著作権に関して	4
はじめに	4
本製品の構成.....	4
別売りアクセサリ	4
ユーザー登録について	4
本書の表記.....	5
設置上の注意.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
アフターサービス.....	5
本機の概要.....	6
主な特徴.....	6
設置方法	6
三脚を使用して設置.....	6
サブウーファー上に設置	7
ウェッジ設置 (モニタリング用途)	7
壁掛け設置	7
アイボルトを使った設置.....	8
各部の名称.....	8
電源パネル	8
コントロールパネル.....	8
電源および外部機器との接続.....	10
電源と電源リンクの接続.....	10
オーディオ信号の接続.....	10
適合ケーブル	10
RDNetの接続.....	11
DSPプリセット	11
各種ダウンロード.....	12
F/Wアップデート	
(USB Burner Manager ソフトウェア).....	12
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	12
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	12
AURORA NET ソフトウェアのダウンロード先.....	12
ソフトウェアの使用に関して	12
トラブルシューティング	13
仕様.....	13
一般.....	14

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック 株式会社の登録商標です。
- Neutrik および etherCON は、Neutrik AG の登録商標です。
また、powerCON および TRUE 1 は、Neutrik AG の商標です。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、dBTechnologies OPERA UNICAシリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書(日本語)は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書(英語)については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"OPERA"の項目を選択し、上段"Manuals"の列から対象となるPDFファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- スピーカー本体..... × 1
- Neutrik powerCON 付 電源コード..... × 1
- 取扱説明書(本書、保証書付き)..... × 1

別売りアクセサリ

設置や本体保護のために、下記の別売りアクセサリがご使用になります。

OPERA UNICA 12 アクセサリ

- FC-OP12 ファンクショナルカバー
- WB-OP12 壁掛けブラケット

OPERA UNICA 15 アクセサリ

- FC-OP15 ファンクショナルカバー
- WB-OP15 壁掛けブラケット

OPERA UNICA 12/15 共通アクセサリ

- SSB 2 スピーカースタンド
- RC-M1 レインカバー
- DS2 ポールマウント
- DS2-S ショートポールマウント
- TE M10 吊り下げ用アイボルト(M10)

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://tascam.jp/jp/login>

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”を使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本機の動作保証温度は、摂氏-5度～50度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出る場合があります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出る場合があります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付(巻末に記載)されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店/ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
 - 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター(巻末に記載)が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
 - 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
 - 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)までご連絡ください。
 - 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (OPERA UNICA xx)*
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
 - お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
 - 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。
- * ご使用中の[OPERA UNICA 12/OPERA UNICA 15]いずれかの型名をお知らせください。

本機の概要

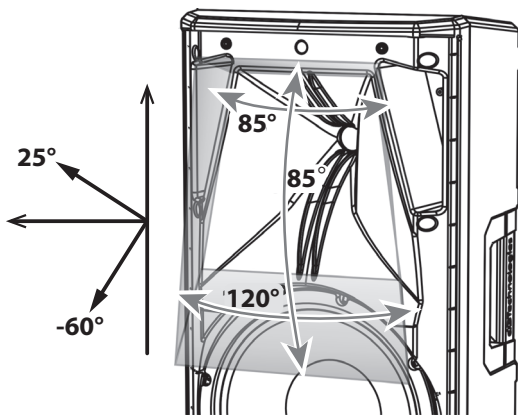
dBTechnologies OPERA UNICAシリーズは、2-Wayアクティブスピーカーで、高域用に1個の1インチ・コンプレッションドライバー(1.75インチ・ボイスコイル 採用)を、中低域用にOPERA UNICA 12では12インチ、OPERA UNICA 15では15インチ(共に3インチ・ボイスコイル 採用)を搭載し、以下の特徴を備えています。

主な特徴

- 本機は、小さなライブ会場におけるモニター用途としてサイズおよび質量を最適化し、コンパクトサイズで設計されています。
- 本機のキャビネットには、強化PPポリポロピレン製の筐体を使用し、丈夫で軽さに優れています。また、持ち運びがしやすいように側面と天面の2ヶ所にハンドル(※)を装備しています。
※ 設置の際に本体のハンドルを使って固定などしないでください。
- 本機は、実用最大出力 1800 W(RMS出力 900 W)を実現するクラスDのDigipro G3アンプを搭載し、電圧自動切替機能を備えたスイッチング電源により、冷却ファンを排除した静かな動作を実現しています。
- 一対の入出力端子(XLR端子)には、バランスアナログ信号による他の音源(ミキサーなど)や、デジチェーン接続で繋いだ他のスピーカーからの入力が可能です。また、本機から他のスピーカーへデジチェーン接続による出力が可能です。
- 様々な使用状況に対応するDSP制御による8種類のイコライザーをプリセット済みです。(11ページ「DSPプリセット」を参照)
- RDNet 接続(※)によって、システム構成と設定を細かくコントロールすることができます。
- ※ 別売りのリモート機器[RDNet Control 2]または[RDNet Control 8]が必要になります。詳細は、リモート機器の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(12ページ「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照)

サウンド カバレッジ

- 多くの構成や様々な状況の設置でも、最適な効果が得られる上下非対称形状の高域用アコースティックホーンを装備しています。



OPERA UNICAシリーズは、上図に示すように特別な形状をしたホーンを装備しており、水平方向のカバレッジは85°(上)~120°(下)の範囲で変化しています。

これにより残響の多い環境下で、縦使用する場合など、音の放射方向を最適化することができます。

垂直方向のカバレッジはトータル85°で、ホーンから出る音圧を遠くの方まで高めることができます。

モニター用途や横置き(ウォールマウント時)では、これらの数値を参考にして適切なカバレッジが得られるようにしてください。

設置方法

電源を入れる前に、必ず、本機のInput Sens. ⑨(入力感度調節ボリューム)が最小値であることを確認してください。

また、本機に接続している音源側の機器の音量も最小にしてください。(各端子類や操作部については、8ページの「各部の名称」を参照してください。電源コードや各ケーブルの接続方法については、10ページの「電源および外部機器との接続」を参照してください。)

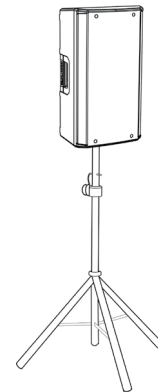
注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 本体のハンドルや本体ブラケットを使って本機器を吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。

三脚を使用して設置

本機に別売りのポールマウント三脚(SSB2)を取り付けて、設置できます。



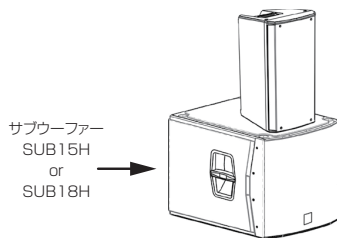
注意

- 安定した設置のために、ポールマウント三脚(SSB2)の接地脚を伸ばした状態で、三脚がスピーカー前面になるように設置してください。また、床からスピーカー最上部までの高さは、160 cm以下にしてください。
- ポールマウント三脚(SSB2)を使用する場合、安全上の理由で2台をスタックさせることはできません。必ず1台のみで使用してください。

サブウーファー上に設置

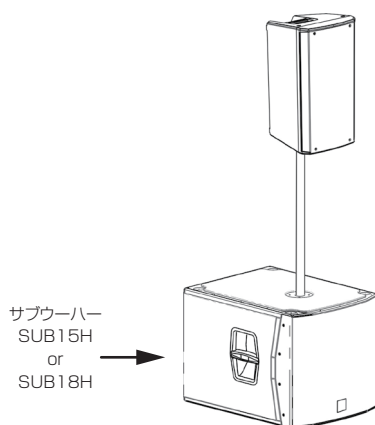
(例1)

M20径穴付きのサブウーファー上に別売りの35 mm径 ミニポールマウント DS2-Sを使用することで、1台の本機を設置可能です。



(例2)

M20径穴付きのサブウーファー上に別売りの35 mm径のポールマウント DS 2を使用することで、1台の本機を設置可能です。



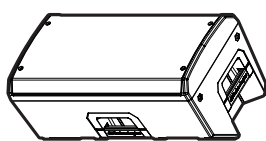
注意

- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- (例2)の場合は安定した設置のために、スピーカー最上部と床との高さは、160 cm以下にしてください。
- ポール設置に使用するサブウーファーによって、別売りの固定金具または固定ベルトが必要になります。

詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 12 ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

ウェッジ設置 (モニタリング用途)

小さなライブ会場などでは、本機をモニター用として使用することができます。その場合は、スピーカーの傾斜面を下にして水平に置いてください。



その際、サウンド・カバレッジの特性に関しては、前述の「本機の概要」をご覧ください。(→ 6 ページ「多くの構成や様々な状況の設置でも、最適な効果が得られる上下非対称形状の高域用アコースティックホーンを装備しています。」)

また、DSP設定は[W1]または[FLAT]の2種類から、適切な設定を選んでください。(→ 11 ページ「DSPプリセット」)

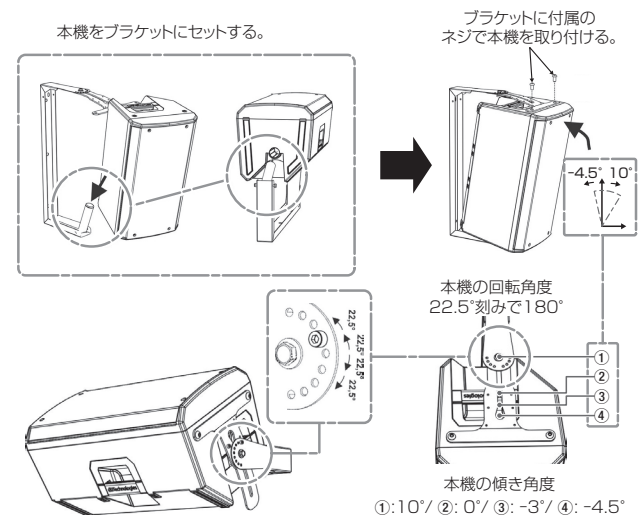
壁掛け設置

本機は、専用の別売の壁掛けブラケットを使って、水平または垂直に壁掛け設置することができます。

専用壁掛けブラケット

- WB-OP12 (OPERA UNICA 12専用)
- WB-OP15 (OPERA UNICA 15専用)

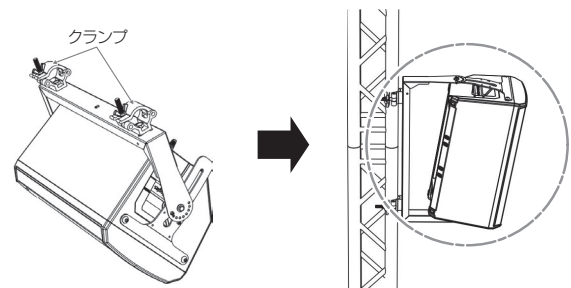
ブラケットの取付け



壁掛けブラケットにセットすると、本機の傾きを以下のように調整できます。

- 傾き方向に-4.5°~10°の範囲で調節可能
- 回転方向に2.5°刻みで180°調節可能

ブラケットとクランプ(社外品)を使用して取付け



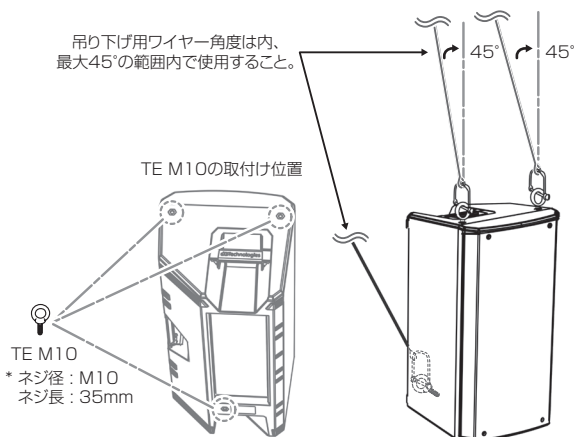
注意

- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 本機のハンドル部を吊り下げ用途に使用しないでください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 12 ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

アイボルトを使った設置

別売りのアイボルト(TE M10 :ネジ径 : M10 ネジ長 35 mm) を使用して、ワイヤー吊り下げも可能です。設置の際は、リア側に45°以内の角度でご使用ください。

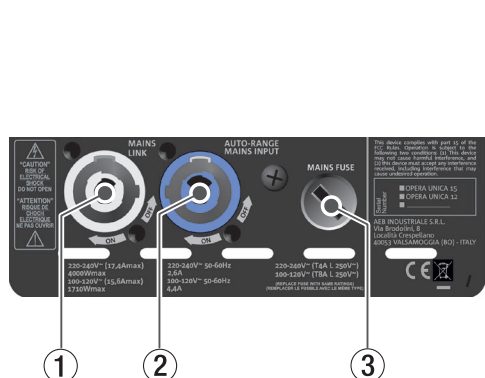


注意

- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 本機のハンドル部を吊り下げ用途に使用しないでください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)

各部の名称

電源パネル



① MAINS LINK

電源リンク端子 (Neutrik社製 powerCON 端子)
他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子で、**AUTO-RANGE MAINS INPUT** ②端子とは、並列接続になっています。

ご使用時は、別売りの専用Neutrik社製 powerCON 付 LINKケーブルをお使いください。

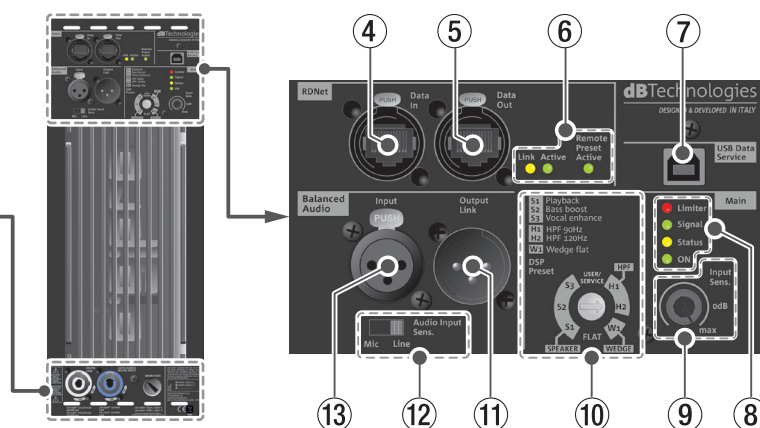
MAINS LINK(電源Link 端子)の最大供給電流は、下記の表に記述してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができます。

MAINS LINK 端子の最大供給電流 (AC100-120V時)

15.6 A (max)/1710 W (max)

電源LINKケーブルを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

コントロールパネル



② AUTO-RANGE MAINS INPUT

AC電源端子 (Neutrik社製 powerCON 端子)
付属のNeutrik社製 powerCON 付電源コードを接続します。電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の**Input Sens.** ⑨(入力感度調節ボリューム)のレベルが最小のポジションにあること、また音源側の機器の音量が最小であることを確認して下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

③ MAINS FUSE

フューズホルダー
万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。

④ Data in (RDNet ネットワーク接続用)

データ入力 etherCON 端子 (Neutrik社製)
別売りのネットワークコントローラー RDNet Control 2または RDNet Control 8に接続します。
また、他のRDNet対応スピーカーからデジチェーン接続の入力として使用します。

⑤ Data Out (RDNet デジチェーン出力用)

データ出力 etherCON 端子 (Neutrik社製)
本機を複数台設置する際やラインアレイ構成で、他のRDNet対応スピーカーにデジチェーン接続の出力として使用します。

⑥ コントロールLED

RDNetネットワーク関連のステータスLEDです。

- **Link LED (黄色)**
RDNetネットワークがアクティブの場合に点灯します。
- **Active LED (緑色)**
RDNetネットワーク上でデータ通信を行っている際、点滅します。
- **Remote Preset Active LED (緑色)**
本機がRDNetネットワーク上で、制御(リモートコントロール)されている場合に点灯します。

RDNetネットワークの使用の詳細は、12ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

⑦ USB Data Service

サービスデータ 端子 (USB Bタイプ)
本機のF/Wをアップデートする際、使用します。
F/Wのダウンロード方法は、12ページの「F/Wアップデート(USB Burner Managerソフトウェア)」を参照してください。

⑧ ステータス表示LED

- **Limiter LED (赤色)**
入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点灯します。
(本機の不具合で停止した場合は、点滅します。)
これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LEDが連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷をかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- **Signal LED (緑色)**
オーディオ信号が入力されている時に点滅し、適正な入力信号時のみ点灯します。
その他の不具合で停止した場合は、消灯します。
- **Status LED (黄色)**
電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。
アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、Status LEDが点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。
その他の不具合で停止した場合は、点灯します。
- **ON (緑色)**
正常に状態で動作している時、またはその他の不具合で点灯します。

本機の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑨ Input Sens. (入力感度調節ボリューム)

アンプ部に入力する信号の感度を調整します。
電源を投入する前は必ず、最小値に設定してください。

⑩ DSP Preset

入力ソースや設置環境に合ったDSPプリセット(EQ)をロータリースイッチで選択します。
(→ 11ページ「DSPプリセット」)

⑪ Output Link

XLRバランス出力端子
XLR端子によるアナログバランス出力端子で、本機を複数台設置する際にデジチェーン構成で出力するオーディオ信号の接続や他のアンプ内蔵スピーカーにオーディオ信号を出力する際に使用します。

⑫ Audio Input Sens. (入力感度切替スイッチ)

- **[Line] :** **Input ⑬**に音源(ミキサーなど)を接続する際、または本機に他のスピーカーをデジチェーン接続をする場合に**[Line]**側に切り換えてください。
- **[Mic] :** **Input ⑬**にマイクを接続する場合、**[Mic]**側に切り換えてください。

⑬ Input

XLRバランス入力端子
XLR端子によるアナログバランス入力端子で、ミキサーや他のスピーカー(音源)のバランス信号入力が可能です。

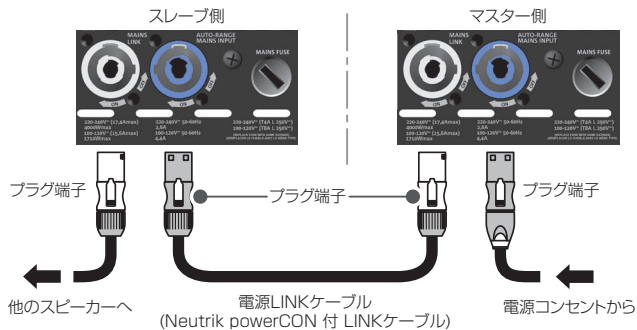
注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

電源および外部機器との接続

本機は、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー（マスター側）から、2台目以降のスピーカー（スレーブ側）にデジチェーン接続で供給することができます。

電源と電源リンクの接続



電源の接続

本機の**AUTO-RANGE MAINS INPUT**(AC電源端子) ②に付属のNeutrik powerCON 付電源コードを接続し、プラグ端子を時計回りに回転させて、ロックしてください。

ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の**Input Sens.** ⑨(入力感度調節ボリューム)のレベルが最小のポジションにあること、また音源側の機器の音量が最小であることを確認して下さい。
- 電源コードは必ず、付属のNeutrik powerCON 付電源コードをご使用ください。また、電源LINKケーブルも必ず、Neutrik powerCON 付LINKケーブル(別売り)をお買い求めの上、ご使用ください。
それ以外のコードやケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。
(弊社は、不適切なケーブルやコード類またはアクセサリの使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたコードやケーブルは、新しいものと交換してください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 濡れた手または、機器や電源コード(または電源LINKケーブル)が濡れた状態で、絶対に電源コード(または電源LINKケーブル)の接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

電源リンクの接続

MAINS LINK(電源Link端子) ①は、マスター側からスレーブ側に専用Neutrik powerCON 付LINKケーブル(別売り)を使って、デジチェーン接続が可能です。

- まず、マスター側の本機の**AUTO-RANGE MAINS INPUT** ②に、Neutrik powerCON 付電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。
- 次に、専用Neutrik powerCON 付LINKケーブル(別売り)で、マスター側の**MAINS LINK** ①とスレーブ側の**AUTO-RANGE MAINS INPUT** ②に接続します。

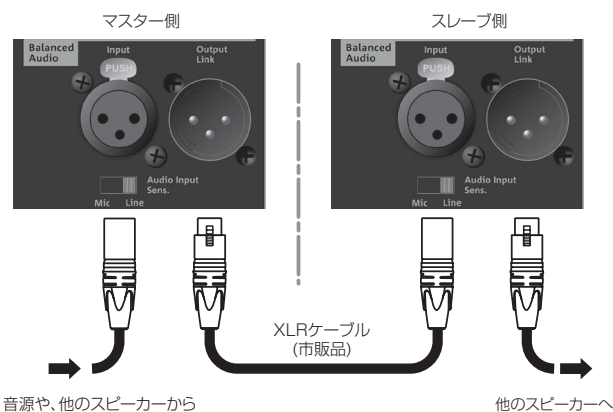
上記の接続を繰り返し、マスター側の**MAINS LINK** ①の下側に記載された最大供給電流に達するまで、スレーブ側のスピーカーを接続することが可能です。

オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、マスター側からスレーブ側に送出することができます。

- まず、音源機器からのオーディオ信号をマスター側の**Input**(XLRバランス入力端子) ⑬に接続した後、バランスXLRケーブル(市販品)を使って、マスター側の**Output Link**(バランス出力端子) ⑩とスレーブ側の**Input**(XLRバランス入力端子) ⑬に接続します。
- 上記の接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができ、スピーカー配置(ラインアレイ構成)に沿ったデジチェーン接続(※)が可能です。

※ 音源に音楽プレイヤーやキーボード、または本機のデジチェーン接続をする場合、**Audio Input Sens.** ⑫(入力感度切替スイッチ)を[Line]側に切り換えてください。



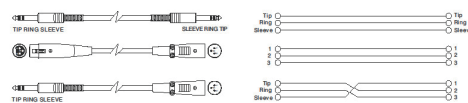
注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にしてください。
- 入力機器のケーブルの接続や取り外しは必ず、本機の電源を切り、電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

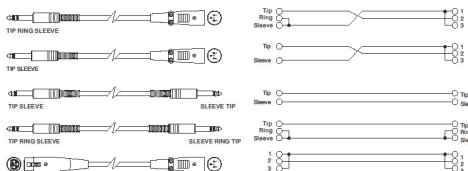
適合ケーブル

OPERAシリーズに適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



アンバランスケーブル



注意

- ケーブルの接続や取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- 不完全なケーブルの使用、認証されていないケーブルの使用、およびシステム構成や使用する国の規格に適合しないコードまたは、ケーブルの使用による責任を負いません。

RDNetの接続

本機をリモート操作をする場合は、別売りのネットワークコントローラー (RDNet Control 2やRDNet Control 8) を使用して、制御したいスピーカーのData In 端子④(etherCON 端子)にネットワークコントローラーからのLANケーブル(市販品)を接続します。

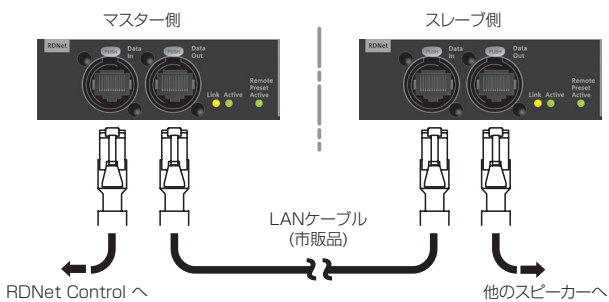
RDNet 接続で複数機を制御する場合、マスター側のData Out 端子⑤からスレーブ側のData In 端子④にLANケーブル(市販品)で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のラインアレイ構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2 : 1 ch/32台×2 ch 最大64台
- RDNet Control 8 : 1 ch/32台×8 ch 最大256台

RDNet ネットワーク上に接続した機器が認識された場合、コントロールLED⑥のLink LED(黄色)が点灯します。



RDNet ネットワークの使用方法の詳細は、12 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

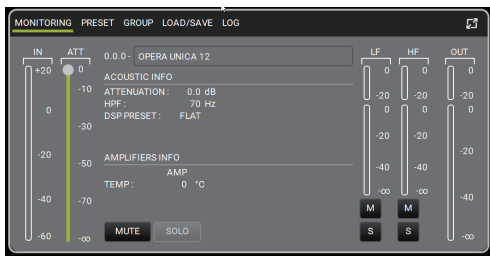
注意

本機をネットワーク接続で制御する場合、Input Sens. ⑨やDSP Preset ⑩の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。) 設置前に本機およびラインアレイ構成のスピーカーのパラメーターを物理的に複製保存することをお勧めします。

リモートコントロール

無料のAURORANET ソフトウェアを使用して、RDNet 接続による本機のパラメーターをリモートコントロールで設定可能です。

- パラメーター設定は、RDNet 接続が正しく行われた後、AURORANET ソフトウェアを使用することで、本機で設定するよりも、多くのパラメーターをリモートコントロールで設定できます。



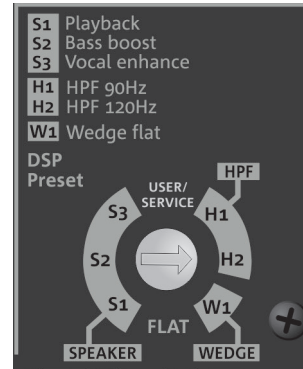
パラメーター設定画面

- RDNet と AURORANET ソフトウェアによるリモートコントロールの場合、本機のローカル設定はバイパスされ、AURORANET ソフトウェアによってすべて制御されます。AURORANET ソフトウェアの使用方法の詳細は、12 ページの「AURORA NET ソフトウェアのダウンロード先」を参照してください。

DSPプリセット

本機は、DSPによって処理される8種類のデジタルイコライザーがあらかじめプログラムされており、目的に応じてプリセット値を選択できます。

選択するには、小さなマイナスドライバーを使ってDSPプリセットを希望する番号に合わせてください。



SPEAKER		
S1	Playback	MP3プレーヤーやCDからからの入力に使用する場合に、最適なイコライザーです。低域と高域の音が増幅されます。
S2	Bass Boost	低域を増強します。
S3	Vocal enhance	ボーカルやスピーチなどマイクを通して入力する場合に最適な設定です。中高域を強調し、ボーカルをシャープにするイコライザーです。 ※ Audio Input Sens. ⑫(入力感度切替スイッチ)は、[Mic]側
H1	HPF 90 Hz	90 Hz ハイパスフィルター (90 Hz 以下をカット)
H2	HPF 120 Hz	120 Hz ハイパスフィルター (120 Hz 以下をカット)

WEDGE		
W1	Wedge flat	ウェッジ設置時に床面との反射が、引き起こす低域への影響を軽減させ、フラットな状態になります。

	FLAT	イコライジングをかけずに、入力されたオーディオ信号をそのまま出力します。ライブ公演などに最適なイコライザーです。
	USER/SERVICE	RDNet接続時は、設定値の保存先となります。また、ファームウェア更新時にも使用します。

各種ダウンロード

F/Wアップデート

(USB Burner Manager ソフトウェア)

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/Wを常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的にdBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/Wの更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

1. 上記のDownloadページから"**Software & Controllerr**"を開いて、[USB BURNER MANAGER]ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
2. 上記のDownloadページから"**OPERA**"を開いて、上段の"**Firmware**"の列と対象となる"**OPERA UNICA xx**"機種種の行から、最新のF/W (zip 形式) をダウンロードしてください。
ダウンロード後、解凍してください。
3. [USB BURNER MANAGER]ソフトウェアを起動し、画面右上から、"**File Opening...**"を選択してください。
4. 先程ダウンロードしたF/Wを選択してください。
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
5. UPDATEをクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

注意

F/Wアップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"**Software & Controllerr**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

● 取扱説明書

- **RDNet Control 2**
"RDNet CONTROL_2_cod420120189_Revx.x-MAN.pdf"
- **RDNet Control 8**
"RDNET CONTROL8_cod420120183_Revx.pdf"

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"**Installation**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となるアクセサリーのPDFファイルをダウンロードしてください。

● ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

AURORA NET ソフトウェアのダウンロード先

ダウンロードとインストール方法

まず、dBTechnologiesのウェブサイトで、お客様のユーザー登録(→ 2 ページを参照)を行ってください。

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先(MY DOWNLOADページ)に移動しません。

ダウンロード

ログイン後、dBTechnologiesの下記ウェブサイトでは本ソフトウェアをダウンロードできます。

- <http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>ダウンロードページから"**Software&Controller**"の項目を開いて、上段の"**Software**"の列から Windows または Mac OS の圧縮ファイル(Zip形式)を選択すると、**MY DOWNLOAD**ページに移動します。

そのページから目的のファイルを選択して、圧縮ファイルをダウンロードしてください。

インストール

- Windows
ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、自己解凍型のファイルを開き、現れたフォルダー内のsetup.exeファイルを開いてください。
- Mac OS
ダウンロードしたディスクイメージを開き、**AURORA NET**のアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグしてください。

注意

ソフトウェアをダウンロード中は、PCの電源を切らないでください。故障の原因になります。

ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AEB INDUSTRIALE s.r.l. に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

トラブルシューティング

スピーカーの電源が入らない。

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik powerCON 付 電源コードおよび Neutrik powerCON 付 LINK ケーブルの端子が、しっかり接続されて、時計回りにロックしているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない。

- 各入力端子が正しく接続されており、Neutrik powerCON 付 電源コードを使用されているか、確認してください。
- ケーブル類に損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入出力レベルを確認し、適正な位置に合わせてください。
(本機の **Input Sens.** ⑨(入力感度調節ボリューム)の場所は、8 ページの「各部の名称」を参照してください。)
- RRDNet ネットワークに接続している場合は、**AURORA NET** ソフトウェア上で、**MUTE** 機能が無効になっていることを確認してください。

スピーカーの音が歪んでいる。

- まず、接続した音源機器のボリュームを調整し、本機の **Input Sens.** ⑨(入力感度調節 ボリューム) を適正な値に調整してください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。)
- **Audio Input Sens.** ⑫(入力感度切替 スイッチ) の設定が、それぞれの音源機器に合っているか確認してください。
 - [Line] 音楽プレイヤーやキーボードまたは本機のデジジチェーン接続をする場合、[Line]側に切り換えてください。
 - [Mic] マイクを接続する場合、[Mic]側に切り換えてください。
- システムに合った **DSPプリセット** 設定が選択されているか確認してください。
- **RDNet** ネットワークに接続している場合は、**AURORA NET** ソフトウェアから、全てのパラメーターが適切な値に設定されていることを確認してください。
(本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定は、バイパスされますので、注意してください。)

仕様

形式

2-Way アクティブスピーカー

スピーカーユニット

HF	: 1 インチ × 1 (全機種共通) (1.75 インチ ボイス コイル採用)
LF	: 12 インチ × 1 (UNICA 12) : 15 インチ × 1 (UNICA 15) (3 インチ ボイス コイル採用)
指向性	: 非対称ホーン
カバレッジ (H)	: 100° (85° up/120° down)
(V)	: 85° (+25° /-60°)

アンプ部

形式	: Digipro G3 クラス D
クラス	: クラス D
RMS出力	: 900 W
ピーク出力	: 1800 W
冷却システム	: 対流式

DSP部

コントローラー	: DSP 56 bit
AD/DA処理	: 24 bit/48 kHz
プリセット	: 初期設定値 × 8
ユーザー設定	: 入力感度切替スイッチ 入力感度調節ボリューム
リミッター	: ピーク、RMS、サーマル
警告LED	: リミッター、信号入力、ステータス、オン
状態LED	: リンク、アクティブ、リモートプリセット 有効
Delayオプション	: 最大58.6 ms (RDNet使用時)

周波数特性

	[-10 dB]時	[-6 dB]時
UNICA 12	67 ~ 20,000 Hz	73 ~ 20,000 Hz
UNICA 15	57 ~ 20,000 Hz	61 ~ 20,000 Hz

最大SPL

UNICA 12	: 132 dB
UNICA 15	: 133 dB

クロスオーバー周波数 : 1,600 Hz (24 dB/oct))

外部入力

Input 端子	: XLR 端子 (メス) × 1 (バランス) (Line/Mic 切替式)
USB 端子	: B タイプ × 1
RDNet 端子	: etherCON 端子 × 1 (Neutrik社製)

外部出力

Output Link 端子	: XLR 端子 (オス) × 1 (バランス)
電源 Link 端子	: powerCON 端子 × 1 (Neutrik社製) (最大供給電流: 15.6 A/1710 W)
RDNet 端子	: etherCON 端子 × 1 (Neutrik社製)

一般

電源

電圧 : AC 100~240 V(自動切替式)、50/60 Hz
電源端子 : Neutrik社製 powerCON 端子

注意

日本国内においては、AC100 Vのみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

動作温度

-5 ~ +50℃

外形寸法

幅 x 高さ x 奥行き (突起部を含まず)

UNICA 12 : 350×642×349 mm

UNICA 15 : 420×722×419 mm

質量

UNICA 12 : 15 kg

UNICA 15 : 18.2 kg

消費電流

2.1 A (100~120 V時) ※1

4.4 A (100~120 V時) ※2

消費電力

19 W ※3

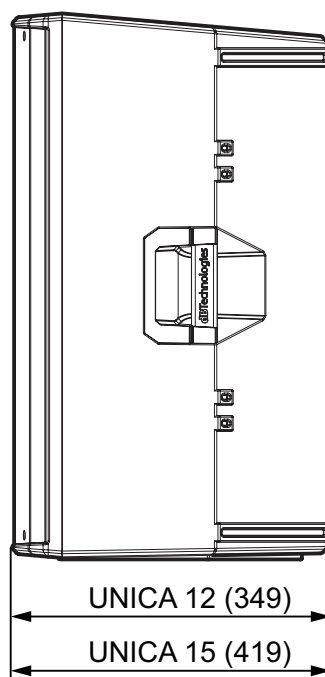
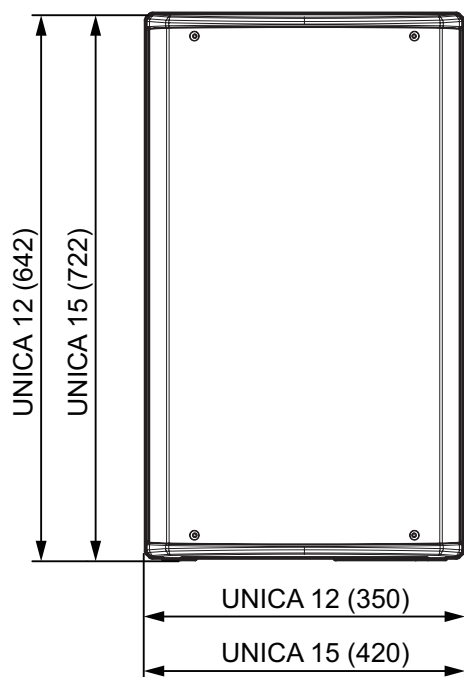
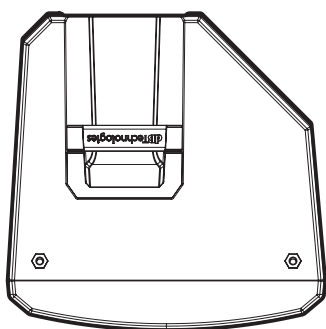
※ 1 : 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/8の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)
いかなる構成時でもこれを最小値としてください。

※ 2 : 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/3の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生
する状態)
プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジング
を決めてください。

※ 3 : 電源オンで入力信号がない時

突入電流

4.6 A





無料修理規定(持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
(1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(2)お買い上げ後の輸送/移動/落下などによる故障および損傷
(3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
(4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
(5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間/条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障/修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

保証書

品名 および 形名	dBTechnologies OPERA UNICA 12/UNICA 15		
保証期間	本体	1年	
お買い上げ日	年 月 日		
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センター、またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店		
	電話	

見本

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

お客様にご記入いただいた保証書は、ご購入日から保証書に記載のサービス活動およびその後のアフターケア活動の受付内容を利用させていただきますので、ご了承ください。

0219 MA-2828A